5　特別支援部会「仮説②」

①　今年度、帯小が目指す自己肯定感の高い子どもとは？

文部科学省の自己肯定感の定義は？
『生徒指導リーフ』（国立教育政策研究所）に よると、自己肯定感とは、心理学用語 Self Esteem の訳語として定着した概念である「自尊感情」とほぼ同じ意味合いで用いられ、「自分自身に満足している」「自分にはよいところがある」などのような、自己に関する肯定的な評価であるとされています。

（今年度の帯広小学校が考える自己肯定感は…）

自己肯定感が高い　＝　のびのびと自己表現できる

〇ありのままの自分の気持ちや考えでよい　と思える
（みんなと同じでなくてもよい）

〇間違ってもよい　と思える
（間違いは誰にでもある、気付いたことがすでに成長の一歩目）

〇伝えることって楽しい→伝えたい！　と思える
（共感してもらえた時の充実感を知る）

②人と関わる学習活動の設定

＜人と関わる学習活動例＞R4・R5
①【国語】言語活動で交流学級との交流場面を設定（交流学級とリンクさせた学習スタイル）
②【算数】異学年合同、類似単元学習
③他者との関わりを目的とした単元設定
④欠席児童と meet でつなぐ授業
⑤意図的なペア交流

自己肯定感を育むために「人と関わる」活動を設定します。関わり合いを通して共感する喜びを味わったり、たとえ同じ考えでなくとも、自分とは違う相手の思いや感じ方を知ることを楽しく思ったり、誰かと同じでない自分なりの表現を受け取ってもらえる安心感を感じたりすることを通して、「のびのび自己表現する」児童の姿を目指していきます。

３年目はコミュニケーション（社会性）の力に重点を入れていることもあり、個や集団に応じた、多様な学習活動を先生たちのアイディアで創出していただきたいです。

③『自己肯定感』を高める教師の関わり方

捉え方をポジティブに変換して伝える

努力の過程を見せる（伝える）

まなびのあしあと

共感的に聴く（批判しない、価値観を押し付けない）

表出する行動で判断せずに、その行動理由や背景に思いを巡らせる

『自己肯定感』を高める教師の関わり方については、多くの書籍に様々な考え方が紹介されています。上記はその代表的なものを取り上げて記載しました。すでに、実践しているものも多くあることと思いますが、『自己肯定感』を意識して授業に取り組んでいく中で、上記以外のより効果的な方法に気づいたり、個別の実態に応じた実際的な関わり方を探ったりしていきたいと考えています。